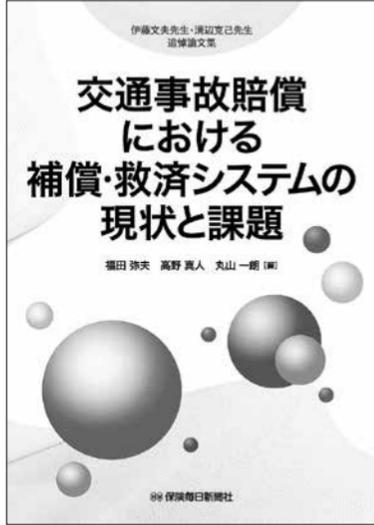


書 評

『交通事故賠償における補償・救済システムの現状と課題』

— 伊藤文夫先生・溝辺克己先生追悼論文集 —

福田弥夫、高野真人、丸山一郎 編集



本書は、交通事故損害賠償法の創成期から実務に携わり、法理論を踏ま

えてその発展を担った優

れた先達である伊藤文夫

・溝辺克己両先生に対し

を込めて捧げた追悼論文

集である。

伊藤文夫先生は、自動

車損害賠償保障法(自賠

法)の解釈等、交通事故

損害賠償に関する議論を

出発点に、損害保険、医

事法と広い範囲で論を展

開された方であり、交通

法学会、賠償科学会等の

学会でも鋭い指摘をされ

ておられた。自動車保険

人とをつなぐ役割を果たされたことも忘れがたい。

溝辺克己先生は、弁護

士として、本書の編者で

もある高野真人弁護士と

ともに、長く日弁連交通

事故相談センター発行の

「民事交通事故訴訟 損

害賠償額算定基準」(赤

い本)、「交通事故損害

額算定基準」(青本)の

作成・取り纏めに携わら

されている。

料率算定会(当時)から

日本大学法学部の教授に

転じた後は、教育者とし

ての側面をより強くし、

若手の実務家、学者に分

け隔てなく助言し、人と

れ、また、日本各地での

研修会等を通じ、交通事

故損害賠償実務に通じた

弁護士の育成に尽くされ

た。交通事故損害賠償を

めぐるには、現在も新た

な論点が生まれ、実務家

と学者の間で忌憚のない

議論が行われているが、

その議論の土台を作り、

発展に貢献されたお一人

である。

論文集が献呈された両

先生のお人柄について

は、本書冒頭の藤村和夫

「例、忘れまじ」に活写

されている。

分かれて、17の論文が収

録されている。

これらの論文は、益井

公司「自動車事故におけ

る名義貸与者の責任」、

丸山一郎「逸失利益」

概念を再考する」、山口

齊昭「死亡逸失利益の定

期金賠償」、津川哲郎

「慰謝料の再構成に基づ

く新たな損害概念」、鹿

士真由美「間接被害者の

損害」、末次弘明「家事

英二「医学的立証と後遺

症損害の算定」、高木宏

「向精神薬と自動車運転の法的課題」のように、自動車社会が新たに提起している問題など、極めて多彩である。

いずれの論文も、論集

を献呈された両先生も深

く携わった交通事故賠償

法の論点を執筆者の問題

意識と現在の知見と社会

状況の下で検討する力作

であり、読者は全体を読

むことで、現在の交通事

故損害賠償法が直面する

諸課題を自ずから理解で

きるであろう。そして、

このような優れた論文集

を献呈された両先生の遺

徳をあらためて認識する

ことになろう。ご一読を

お勧めする次第である。

(A5判/374頁、

保険毎日新聞社刊、23年

12月18日発行、税込44

00円)

現在の交通事故損害賠償法の論点がこの1冊に

[評者] 浦川 道太郎 (早稲田大学名誉教授)

本論文集は、「責任

編」「損害概念編」「損

害算定編」「損害調整

編」「保険・手続編」に

従事者の消極損害算定に

おける基礎収入」、垣内

恵子「死亡逸失利益にお

ける就労可能年数」のよ

うに交通事故賠償の基礎

的論点に関わるもの、伊

豆隆義「減価償却費と營

業損害との関係」、松居

英二「医学的立証と後遺

症損害の算定」、高木宏

行「有形財取得型積極損

害における差額説と損益

相殺の関係」のように賠

償額算定の基礎理論に関

わるもの、黒田清綱「加

重についての一考察」、

植草桂子「自賠責保険に

対する被害者の請求と社

会保険者の求償の優劣関

係」、高野真人「自賠法

16条請求権の立替払論の

問題点」のように賠償実

務の現在のあり方に関するもの、新藤えりな

「(公財)日弁連交通事

故相談センターの歩みと

展望」、福田弥夫「自賠

責保険と交通事故被害者

の救済」のように賠償実

務の制度に関わるもの、

そして、古笛恵子「自動

運転社会における運行供

用者責任」、木ノ元直樹

「向精神薬と自動車運転

の法的課題」のように、

自動車社会が新たに提起

している問題など、極め

て多彩である。

いずれの論文も、論集

を献呈された両先生も深

く携わった交通事故賠償

法の論点を執筆者の問題

意識と現在の知見と社会

状況の下で検討する力作

であり、読者は全体を読

むことで、現在の交通事

故損害賠償法が直面する

諸課題を自ずから理解で

きるであろう。そして、

このような優れた論文集

を献呈された両先生の遺

徳をあらためて認識する

ことになろう。ご一読を

お勧めする次第である。

(A5判/374頁、

保険毎日新聞社刊、23年

12月18日発行、税込44

00円)